

終戦後の光景を物語る者は誰も残っていないであろうーロシア軍によるウクライナ侵略について

After the battle, no landscape will remain (On the Russian army's invasion of Ukraine)

<https://enlacezapatista.ezln.org.mx/2022/03/07/after-the-battle-no-landscape-will-remain/>

2022年3月2日

「生命のための宣言」に署名した者たち
メキシコおよび国外の第6委員会メンバー
同志及び兄弟、姉妹たちへ

ヨーロッパと呼ばれている地域で、今、起こっている事について、私たちの考えを言葉にしたい。

まず第一に、ロシア軍という侵略軍がいる。戦争の両方の側に巨大資本の利害がかかっている。妄想にとらわれた者たち、そして、狡猾な経済的打算をなす者たちによって苦しめられているのは、ロシアとウクライナ（そして、おそらく近いうちに、近隣そして遠方へと広がる諸地域）の人民である。

サパティスタは特定の国家を支持することはない。サパティスタはシステムに反対し、生命のためにたたかう人々を支持する。

約19年前の米国に率いられた多国籍軍によるイラク侵略に際して、全世界で戦争に反対するたたかいが起こった。その時、誰の頭にも侵略戦争に反対することがサダム・フセインを支持する事だ、などと言う考えは浮かばなかった。今、状況は全く同じという訳ではないが似たようなものに思える。ゼレンスキーでもプーチンでもない。戦争をやめろ。

第二に、いくつもの政府がゼレンスキーとプーチンの陣営に分かれてそれぞれに与しているが、それは経済的打算によってそうしているだけである。そこには人類に対するアピールは何もない。これらの政府とそのイデオログたちにとって、介入、侵略、破壊には善と悪とがあるのだ。

自らを支持する者が行う介入、侵略、破壊は善である。反対する者が犯した介入、侵略、破壊は悪である。

ウクライナへの軍事侵略を正当化するプーチンの犯罪的な主張に拍手を送っている人々が、巨大資本が目障りに思う諸国への侵略が同じように正当化されると、それには嘆き悲しんだりするわけである。

連中は「ネオナチの圧政」から救うため、とか「麻薬無法地帯」を終わらせるため、とか主張して他の地域を侵略する。そして、プーチンがつぶやくのと同じ言葉が繰り返される。「われわれはナチを叩き出す（あるいは同じようなセリフ）」、そして、そこから後はいかに

「それらの地域で人々が危険に晒されていたか」について膨大な「正当化」が行われるわけだ。

ロシアのわれわれの友人たちが言うように、「ロシアの爆弾、ロケット、弾丸がウクライナに向かって飛んでいくが、誰も相手の政治的意見が何かとか、何語を話しているのか、などと尋ねたりはしない。」双方の違いは単に「国籍」が異なるだけなのである。

第三に、巨大資本とその「西側」国家たちが、この戦争の背後に座り、状況が悪化していくのをじっくりと眺め、あるいはそれを促したりさえしている。いったん侵略が始まったら、連中はウクライナが抵抗するのかどうか様子を見て、あれやこれやの結果からどんな利益が得られるのかを計算していたのだ。ウクライナが生き残ると、連中は「援助」を熱心に送り始めたが、請求の方は後からである。ウクライナの抵抗に驚いているのは、プーチンだけではない。

この戦争の勝者は巨大な軍産複合体と巨大資本であり、連中はこれを地域を征服し、破壊し、再建する——すなわち、新たな商品・消費者市場を創りだす——チャンスだと考えているのである。

第四に、われわれは、それぞれの陣営のメディアとソーシャルネットワークが「ニュース」と称して広めているものや、突然急に増えた地政学の専門家たち、ワルシャワ条約機構やNATOを懐かしむような者たちが為す「分析」なるものに頼るのではなく、われわれ自身のように、ウクライナとロシアでの生命のための闘争をたたかっている者たちを探し出し、尋ねてみることに決めたのだ。

何度かの試みの末に、サバティスタ民族解放軍第6委員会は、ロシアおよびウクライナと呼ばれている地域で、抵抗と反乱をたたかうアライ（友人）たちとコンタクトを取ることが出来た。

第五に、簡潔に言えば、われわれの友人たちは、アナーキストの自由の旗を掲げ、断固として抵抗を続けている。ウクライナのドンバス地方で反乱に立ち上がった人々がおり、ロシアの街頭や各地で人々は活動し、デモをしている。ロシアで戦争に抗議し、逮捕され、殴打されている人びとがいる。ウクライナではロシア軍に殺されている人びとがいる。

彼女・彼らは互いに、そしてわれわれと団結しているのだが、それはこの戦争に反対する、というだけではなく、人民を抑圧する政府と「同じ立場」に身を置くことを拒否する、という点でも結びついている。

両陣営の混乱とカオスの中にあっても、彼女・彼らの確信は揺るがない。それは、自律のための闘争、国境と国民国家、そして、単に国の旗印をすげ替えただけのそれぞれの国での抑圧に対する拒否、である。

われわれの義務は全力で彼女・彼らを支援することである。ひとつの言葉、ひとつのイメ

ージ、ひとつの楽曲、ひとつのダンス、振り上げたひとつの拳、そして、一つのハグ（抱擁）——たとえ、いかなる遠隔の地からのものであっても、それらは彼女・彼らの心を奮い立たせる支援の一つの形なのである。

抵抗とは生き残り、勝利することである。われわれの友人たちを抵抗、すなわち生命のための闘いにおいて支援しよう。それは彼女・彼らに対する義務であり、同時にわれわれ自身に対する義務でもある。

第六に、したがってわれわれは、まだ行動を起こしていない国内外の第 6 委員会メンバーたちに対して、それぞれの地域の時間、やり方、可能性に応じて、この戦争に対する反対を表明し、ウクライナとロシアのそれぞれの地域で自由な世界を求めてたたかっている人びとに連帯するよう呼びかける。

われわれはまた、ウクライナと呼ばれている地域での抵抗への財政的支援（時期が来たら口座は明らかにされる）を通しての団結と援助を呼びかける。

サパティスタ民族解放軍第 6 委員会は、為すべきことを為しており、ロシアとウクライナでこの戦争に反対してたたかっている人びとに出来る限りの、少額の支援を送っている。われわれは SLUMIL K'AJXEMK'OP（反乱の土地—ヨーロッパ）にいる友人たちと共に、抵抗する人々を支えるための共同基金を立ち上げるための準備を進めている。

われわれは、口先だけの偽りではなく、断固として、声をあげ、要求する。ロシア軍はウクライナから出ていけ！

ただちに戦争をやめろ。もし、この戦争が続き、そして予測されるようにエスカレートしていくならば、おそらく終戦後の光景を物語る者は誰も残っていないであろう。

メキシコ南東部の山岳地より。

反乱軍副司令官 モイセス

副司令官 ガレアノ

サパティスタ民族解放軍第 6 委員会

2022 年 3 月